

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	厚生ビル管理株式会社	
施 設 名	秋田県総合生活文化会館（アトリオン音楽ホール）	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業	
内定額（総額）	10,782	（千円）
公 演 事 業	8,944	（千円）
人材養成事業	1,838	（千円）
普及啓発事業	0	（千円）

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	トン・コープマン オルガン・リサイタル	平成30年7月7日(土)	トン・コープマン (Org.)、田代友美 (公開レッスン受講)、佐々木尚子 (〃)	目標値	490
		アトリオン音楽ホール		実績値	587
2	夏の弦 開館30周年記念ストリング・アンサンブル	平成30年8月19日(日)	渡辺玲子 (Vn.)、遠藤幸男 (Va.)、羽川真介 (Vc.) ほか	目標値	580
		アトリオン音楽ホール		実績値	361
3	冬の管 開館30周年記念ウィンド・アンサンブル	平成31年1月20日(日)	天野正道 (Cond.)、佐々木新平 (Cond.)、米倉森 (Cla.)、中嶋尚也 (Trp.)、柳生和大 (Tub.) ほか	目標値	690
		アトリオン音楽ホール		実績値	671
4	アトリオン・コンサートオペラVol.6 歌劇『ラ・ボエーム』	平成31年2月17日(日)	柴田真郁 (Cond.)、高橋絵理 (Sop.)、西村悟 (Ten.)、小林沙羅 (Sop.)、押川浩士 (Bar.) ほか	目標値	670
		アトリオン音楽ホール		実績値	585
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,430
				実績値	2,204

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	秋田県オルガン奏者養成講座	通年	香取智子 (Org.)、椎名雄一郎 (〃) ほか	目標値	100
		アトリオン音楽ホール		実績値	74
2	アトリオン少年少女合唱団	通年	加藤洋朗 (Cond.)、山崎圭子 (Pf.)、近藤美穂子 (〃) ほか	目標値	30
		アトリオン音楽ホールほか		実績値	303
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	130
				実績値	377

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

平成30年度を開館30周年の節目とし、補助金交付要望時に地域特性、当館の特徴や県民のニーズ等により以下のミッションを再確認した。その内容に基づき計画し、申請・採択事業については予定通り実施した。

1. 公演事業・・・高い頂きを目指します。

- ・国内外の第一線で活躍する音楽家の演奏会を安価で体験できる場の創造。
(トン・コープマン オルガンリサイタル)
- ・当館独自の公演の創造と県音楽文化のレベル向上。
(アマチュアとプロとの共演：歌劇『ラ・ボエーム』)
- ・県民と出演者が共に感動を創造する場の提供。
(県出身者による公演：夏の弦、冬の管)

2. 人材養成事業・・・種をまき、苗を植えます（秋田県オルガン奏者養成講座、アトリオン少年少女合唱団）。

- ・音楽を奏でる喜びを享受できる場の提供。
- ・音楽を通じた自己研鑽を積める環境の整備、機会の提供。
- ・プロと共演できる機会の創出（公演事業、普及啓発事業への起用など）。
- ・初心者、未経験者も参加できるような間口を広げる取組み。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

ミッションと目標の達成状況を計るために設定した指標と考え方は以下の通り。

1. 公演事業全体

- 1) 満足度：公演の質の高さを測るため。
- 2) アマチュア出演割合：アマチュアとプロとの共演により県音楽文化向上を図るため。
- 3) 鑑賞者一人当たりの補助金額：交付された補助金を多くの鑑賞者に還元できるように努めるため。

2. 人材養成事業

秋田県オルガン奏者養成講座

- 1) 新規受講生割合：間口を広げ活動の安定を図るため。
- 2) 主催事業への受講生出演者割合：事業の成果の披露の場を設定するため。
- 3) 貸館事業への受講生出演者数：事業の成果を自主的な活動にも波及させるため。

アトリオン少年少女合唱団

- 1) 新規入団者の割合：間口を広げ活動の安定を図るため。
- 2) 音楽未経験者の割合：間口を広げるため。

後述の有効性で分析したとおり、概ね目標は達成しており助成に値する意義はかなり認められた。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

目標の達成度を測るために設定した指標と達成状況は以下の通りである。
なお、達成状況は主催公演アンケート集計、申込・参加状況などから率を算出した。

1. 公演事業（結果/指標）

1) 補助事業開催時に実施する入場アンケート満足度90%以上（・大変良かった・良かったの数/アンケート回答数）

【91%/95%】（達成率95%）

2) 公演事業に参加した出演者に占めるアマチュア（音大生含む）の人数割合40%以上

【47%/47%】（達成率100%）

3) 鑑賞者一人あたりの補助金単価5.5千円未満

【4,058円/3,681円】（達成率91%）

4) 共通の目標値

入場者・参加者数：2,204名/2,430名（達成率91%）

入場者・参加率：79%/87%（達成率91%）

収益率：42%/39%（達成率108%）

公演事業達成度平均 96%

2. 人材養成事業（結果/指標）

秋田県オルガン奏者養成講座

1) 新規受講生割合30%以上

【12%/32%】（達成率38%）

2) 受講生のうち、主催事業への出演者割合25%以上

【52%/27%】（達成率193%）

3) 貸館事業への出演者数7名以上

【6名/7名】（達成率85%）

4) 共通の目標値

入場者・参加者数：74名/100名（達成率74%）

アトリオン少年少女合唱団

1) 団員数に占める新規入団者の割合30%以上

【24%/30%】（達成率80%）

2) 音楽未経験者の割合10%以上

【3%/10%】（達成率33%）

3) 共通の目標値

入場者・参加者数：274名/330名（達成率83%）

人材養成事業達成度平均84%

全11項目の達成率の平均は90%であり、全体にばらつきはあるものの設定した目標は概ね達成されたと自己評価出来る。今後は達成率が低い項目について、如何にして向上させるのか、検討する必要がある。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 公演事業のアウトプット：目標の達成度平均96%

■事業期間

4事業ともリハーサル含め全て当初計画通り実施。7月から翌年2月まで、多数のアマチュア奏者を交えつつ、質の高い公演を県民に提供することが出来た。

■事業費（4事業計）

公演事業：交付要望26,190千円/交付申請25,406千円/実績報告24,984千円（-1,206千円～-422千円の範囲）

概ね計画の範囲内の事業費で事業を開催した。

2. 人材養成事業のアウトプット：目標の達成度平均84%

■事業期間

事業1秋田県オルガン奏者養成講座は当初計画通り実施。

事業2アトリエ少年少女合唱団について、年間60回の活動計画に対し72回活動を実施した。

計画より実施回数が増えたが全体の経費圧縮を図り事業費は押さえることが出来た。

■事業費（2事業計）

交付要望5,492千円/交付申請4,625千円/実績報告4,858千円（-634千円～-233千円の範囲）

概ね計画の範囲内の事業費で事業を開催した。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1. 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在

アトリオン音楽ホールには、音楽専用ホールとして、芸術監督（2016年度～設置）、音楽プロデューサー（開館以来設置）、オルガニスト（〃）として専門家を配置してきた。音楽プロデューサーが主催事業の企画立案・交渉・調整・実施準備・制作業務を担当し、芸術監督が、より芸術性が高く、地域住民により効果が波及するよう助言・指導を行う体制である。

オルガニストは、当館における主催事業のみならず、貸館事業におけるオルガンの利活用のため、一般利用者・団体へオルガン講座修了生の紹介や助言指導を行っている。

これらのポジションの設置は他館には無いため、当館での活動に限らず様々な個人団体から公演実施に際してのアドバイスを求められる事が多々ある。

2. 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在

平成25年度から文化庁補助事業採択にチャレンジしているが、その目玉事業として企画したコンサートオペラシリーズに出演するための地元アマチュアによる合唱団2団体が、現在も継続して活動に取り組んでいる（アトリオン合唱団、アトリオン少年少女合唱団）。

特にアトリオン少年少女合唱団は、当館以外にも活動の場を広げており、他館でのオーケストラ共演をはじめとする依頼演奏を経て、令和元年7月に東京都中央区晴海の第一生命ホールで行われる第2回東京国際合唱コンクール児童合唱部門本選への出場が決定しているなど、著しい成長を遂げている。

3. 建物設備等

当館は県内唯一の音楽専用のシューボックス型ホールである。ホール内壁には県を代表する木材「秋田杉」がふんだんに張り巡らされており、空席時の残響が約2.2秒で温かく柔らかい響きを生み出せると好評を得ている。演奏形態によっては時として過剰な残響にもなってしまうが、客席上部の反響板を開閉することにより残響の長さや質を調整することも可能であり、PAを利用するジャズ公演や、講演会等の利用も可能としている。

また、舞台と客席の距離感が近く演奏家と聴衆とのコミュニケーションも取りやすい。

地上12階地下2階からなるアトリオンビルは、音楽ホールのみならず美術館、物産館、飲食店やオフィスも入居する複合ビルであり、イベント開催にあたり集客や控え室などの関係から県内でも高い利便性を誇るビルとして高い稼働率を誇っている。

4. 公演の企画内容、作品の芸術性の独創性、新規性、先導性等

補助事業申請以来、音楽専用ホールである当館の音響効果を活かした数々の独創的な公演を実施してきた。中でも、コンサートオペラシリーズは平成25年度より6回連続実施しており、国内外で活躍している指揮者、歌手陣を起用。また劇中登場する合唱やバレエ、バンドには延べ378名もの地元アマチュアを巻き込んでおり、秋田の音楽文化力向上に一定の成果を果たしている。

5. 人材養成、普及啓発の企画内容の独創性、新規性、先導性等

秋田県オルガン奏者養成講座は、当館ロゴマークの由来にもなったパイプオルガンの利活用を推進するために開館以来継続実施してきた。これまでの30年間で延べ475名の修了生を輩出しており、中学生からシニアまで、趣味の範囲からプロ志望者まで幅広い世代が受講している。補助申請以降は、修了生の主催事業や貸館事業への積極起用・推薦を推進しており、一定の成果を果たすことができた。また、平成31年4月からは当講座1期修了生が新たなオルガニスト（講座講師）に就任しており、更なる発展が期待できる。

アトリオン少年少女合唱団は平成26年12月の活動開始以来、オペラシリーズをはじめとして数々のプロとの共演を果たしており、5年の活動を経て団員数も次第に増加し平成31年4月時点で目標を超える31名の団員が所属している。今後は、主催事業以外での活動推進、団員数の更なる増加、認知度の向上を目標に据え活動の幅に厚みを持たせたい。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

主催公演実施時に行う来場者アンケートやアトリオンの音楽事業を検討する会では、それぞれ来場者や委員から「秋田出身者による公演」を望む声が多く寄せられていて、これまでもソロリサイタルなどでの起用も行ってきた。平成30年度には集大成として県出身者による弦楽オーケストラ公演（夏の弦）、吹奏楽公演（冬の管）を開催し、絶賛を博した。

両公演とも、音楽プロデューサーを中心に、これまで培ってきた人脈を駆使し出演者を一本釣りし、更なる人脈構築にもつながった。また、公演の趣旨や様子は、ホームページやマスメディアのみならず各種SNSで積極的に配信することで両公演とも若い世代の来場が目立った。

また両公演への出演者による当館を会場とした自主企画公演も増加傾向にあり、今後も成長を見守りたい。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

アトリオン音楽ホールにおける職員の正規雇用率は100%である（非常勤職員の芸術監督、オルガニストと委託業者職員を除く）。制作力の向上を中心に、過去6年間の補助採択期間に実施してきた様々な事業を通じて得た経験とスキルアップは得がたいものであり、今後の会館運営上の財産となり、間違い無くソフト面の機能は強化された。今後も、公文協が開催している各支部のアートマネジメント参加をはじめ、様々な研修、人材交流の場に参加し、更なるスキルアップを図りたい。

教育機関とのネットワークは、主催事業への出演や参加等をきっかけに交流が生まれており、職場体験での受け入れ、主催事業での受付・会場ボランティアスタッフとしての受入など、幅を広げることが出来た。

資金確保の面では、公立施設であるため基本的には指定管理期間の事業費は確保されているが、人口減少による利用者数・利用料金収入は減少傾向にある。資金確保の術として、当該補助以外の各種助成（地域創造、日本音楽財団、日本室内楽振興財団、朝日新聞文化財団等）へ申請を行い一定の成果を得た。また、有料のシーズンパス会員制度を導入、会員へ主催事業の通年パスポートを発行することで入場料収入と入場者数の安定化を図った。

基本的には弊社本体が自己資金を投入することで収支の帳尻を合わせているが、約2年後には指定管理期間が満了となり、更新・再公募の時期を来年に控えている。今後は、利用料金制の是非も含め、事業担当部門のみで経営を安定させつつ安価で質の高い事業を県民に提供するべく、県所管課と協議を重ねていきたい。